

## ウナギ産卵場生態調査 V. プレレプトセファルスの採集と産卵地点

塚本勝巳・青山 潤・篠田 章・錢本 慧・木村伸吾（東大海洋研）・  
張 成年・黒木洋明・岡崎 誠（水研セ中央水研）・望岡典隆（九大院農）

【目的】ウナギの産卵集団がどこでどのように形成され、産卵行動がいつどのように開始されるのか、その産卵生態は不明である。これを解明する第一歩として、成魚の捕獲地点とプレレプトセファルスの分布の対応関係、産卵イベントのタイミング、および物理環境を解析した。

【方法】平成20年5月21日～7月14日、西マリアナ海嶺南端部の海山域において実施された学術研究船白鳳丸の航海で、大型ORI ネット BigFish（口径3m、目合0.5mm、水深0-200m 傾斜曳）を用いてウナギ・プレレプトセファルスを採集した。CTD、ADCPを用いて水温、塩分、流況などの物理環境を調べた。プレレプトセファルスの分布を基に数値シミュレーションを行い、産卵が行われた地点を推定した。

【結果】北緯12°15'–13°45' 東経141°15'–142°の西マリアナ海嶺南端部で全長3-7mmのウナギ・プレレプトセファルス約200尾を採集した。分布の中心は開洋丸による親魚の捕獲地点から南西90km、スルガ海山から南西220kmの地点にあった。これらの発育段階と採集日から、親魚の産卵は新月（6月4日）の3日前に行われたものと推定した。東経140°線のCTD観測では、北緯12-18°の範囲に明瞭な塩分フロントは認められなかった。仔魚が採集された0-300m層の水温は20-30°C、塩分は34.3-35.0psuの範囲にあった。ADCP観測では、水深200m以浅で南～南西向きの流れが卓越していた。プレレプトセファルスの分布と推定産卵後日数を基に、数値シミュレーションから推定した産卵地点は、親魚の捕獲地点から東に33km、分布中心からは東北東約90kmの地点と推定された。この推定位置はADCP観測の結果と矛盾しない。今後こうした産卵地点の推定を重ね、ウナギの産卵場形成メカニズムを知ることが重要である。